
魔法と剣と血と

黒翼の墮天使

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

魔法と剣と血と

【Nコード】

N9735H

【作者名】

黒翼の堕天使

【あらすじ】

魔法の世界ガルバジニアそこに日本から一人の少年が迷い込むそうというお話

設定・登場人物一部紹介（前書き）

初心者です

温かい目で見てください

設定・登場人物一部紹介

舞台設定

ガルバジニアは主に5つの国でできています。

西端に位置する「歴史の国」コスタニア

北端に位置する「安全な国」フルスネア

南西に位置する「新興国」ガリスタ

南東に位置する「漁業の国」リストエリア

中心の「大国」ケルアです。

力の関係は

コスタニア<リストエリア<ガリスタ<フルスネア<ケルアです

同盟関係は

フルスネア〓コスタニア

リストエリア〓ガリスタ

ケルアです

ついでに五年前に西の大陸のエルフやバンパイア達と「大戦」と呼ばれる戦いがありました。最初は西国が有利でしたが、バンパイアたちが前線を去り西国とガルバジニアの戦力差はなくなり戦いは泥沼の争いとなっていた。その後、なんとか「大戦」は終わりましたが、ガルバジニアの戦死したひとは30000人以上重傷者を合わせると100000人だったそうです。

魔法について

ガルバジニアの魔法は精神力（魔力）を使って行います。また杖のは魔法発動媒体と呼ばれ武器であればほとんどokです。また属性は火と水と風と土あと伝説の系統光があります。属性がない無属性魔法もあります。

魔法のランクは1〜5まででありそれ以上は5オーバーと呼ばれます。以上です

登場人物（一部）

クロス・アリバース・エルソン

性格甘い

系統火

茶髪に黒目

ランク3

14歳

設定・登場人物一部紹介（後書き）

だいたい一話1万文字あたりにしたいです。
みなさん、応援よろしくします。

by 黒い天使

第一部一話（前書き）

初めまして、黒い天使と言うものです
怪しいものではありません。
この小（後書きに続く）

第一部一話

ガルバジニア暦5427年4月6日コスタニア学院入学の式1時間前

「うわぁ！やば、遅れちゃうー！」

と森を加速の魔法で突っ切っているのは、アルフォリア・シンゲリット・サーリエントという名の少女である、彼女はコスタニア学院の入学生であり、朝寝坊してしまったので出発予定時刻から30分も遅れてしまったのだ。

（うゝまさか私がこんな事になるなんて）

と思っていた、その時

ドサッ

と何か重いものが落ちる音がした

「・・・・・・？なんだろう」とアルフォリアは音がしたほうへ向かった。そこには――

少し時間を戻し日本 埼玉 坂之上南中学校（しかし南以外にない）にかよう中学2年生白川茂14歳はいつものどりの登校ルートを通っていた。

その俳優並の顔（本人は気付いていないが・・・・）の本人はまわりの熱い視線（女性の）が分からない史上最強とも言える鈍感男だった。

そんな茂が歩いていると裏通りに昨日はなかった建物があつた、少し気になったのでドアを手で押してみたが、開かない、良く見たら引き戸だった。茂は扉を引いた。

次の瞬間茂が消えた。茂は中に吸い込まれるようにはいつていきドアが閉まった。

しばらくして建物が消えた

茂は底のない穴を落ちていく、そして――

ドサッ

という音と共に茂が地面にぶつかつた

「いてて、うゝさむ」

さつきまで夏だったのでいきなり春になると半袖では寒い周りを見るとあたり一面森の中だった、空気が美味しいと視界に金髪碧眼の女の子がいた。

（外人かなゝ俺英語自信ないんだよなゝ）

と思つてると少女が近づいてきて茂の目の前に来ると

「い、一緒に行きませんか？すぐですし」

といつてきたなんで顔が赤いのか？熱でもあるのか？と聞くと

「何でもありません！！わ、私の名前はアルフォリア・シンゲリット・サーリエントといいます。アルフォリアで良いです。お名前は？」

「俺は白川茂だよろしくアルフォリア」

と笑いながら行つた。アルフォリアの顔がトマトのように赤くなる

「じゃ、じゃ、じゃあ行きましょうこっちはです。」

「ああよろしく」

（そつえばどこいくんだろう）

と茂はいまさらのように思った。

自分は英語を話せないのに言葉が通じたことを茂は気付かなかつた。

「この道であつてるよな……」

と独り言をつぶやいているのはエイリツツシュ・フォーリツシュ・

デイストレイションだ、

彼は地図を片手に西へ向かっている。

とエイリツシュの前に黒い髪の子と、金髪の子がいた。

少女は少年に熱い視線を送っているが少年はそれに気付かない、

少年たちは、なぜかこちらに向かってくる。少年はともかく少女は

コスタニア学院の制服を着ている。そしてコスタニア学院は西だ。

さすがに無視するわけにはいかなので少年たちに声を掛けた。

「ちよつといいかな」

茂はアルフォリアの地図（何かの芸術作品だと思うほど、のできだ）を片手に森の中を歩いていった。

実は茂、極度の方向音痴で、町にいた外人さんに道案内をしようとして自分が迷ってしまったことがある。駅の場所を教えるつもりが、いつの間にか、森の中にいたときもある、

そんな茂がアルフォリア自作の幼児レベルの地図をもっているのは、鬼に金棒の反対に位置する、餓鬼に芋殻（何の役にも立たない。何の頼りにもならないことのたとえ。）みたいなものだ。（茂は役に立たないどころか物事を悪化させているが）

そして目的地とは正反対の方向に向かっているそんな時、

「ちよつといいかな」

という声が聞こえてきた。

声の主は自分たちの目の前にいる少年だった。

髪の色は藍色、2つあるはずの瞳の片方は眼帯が付いててもうひとつの目は深い青だった。

「確認するけど君達はコスタニア学院にいくんだよね」と、訊かれた茂は

「ああ、そうらしいよ、だけどそれがどうしたんだ？」

「いや進む方向間違ってるから。」

「……は？」

まじですか？

と、いうように茂は固まった。

アルフォリアに

「シゲルって方向音痴？」

と言われた。

「……よく言われる」

とだけ返した。

エイリツシュが、

「自己紹介がまだだったね、僕はエイリツツシュ・フォーリツシュ・デイストレイションだ、エイリツシュでいいよろしく」

「俺は白川茂だ、茂でいい」

エイリツシュは白川ときいたときに少し驚いた

（まさか俺以外に****のやつに会えるとはな……）

と思った

「私はアルフォリア・シンゲリット・サーリエントといいます。アルフォリアと呼んで」

とアルフォリアが言った。

その時エイリツシュが言った。

「あ、茂君、君の刀小さくする事が出来るけどどうする？」

「いや、いいよ。」

「そう、嫌ならいいけど、どうして？」

「刀は俺の魂だからな。」

と茂は言った。

入学式

「では、これよりコスタニア学院の入学式を始めます。」

そう言ったのはコスタニア学院の学院長エルリック・オーステル・ブライアンである。

エルリックは長い緑の髪と同じ緑の瞳で集まった生徒達を見回した。このエルリックは外見は20歳に見えるが実際の年齢は誰も知らない

い、

「このコスタニア学院は聖サーリエスと深い関わりのある場所です――

聖サーリエスとは約7000年前にガルバジニアを統一し、吸血鬼やエルフを退けたと言われている人物だ、今はサーリエス教と言われる宗教までありそれには国民の2/3が入っている。

しかしこのクロス・アリバース・エルソンには関係無い、短い赤茶色の髪に紅い瞳という風貌の少年は始まった長い話を聞き流しながら隣の少女へ目を向けた。

金髪碧眼の少女の名前はクリスティア・ド・クイント・エテルフォント、クロスの幼なじみである。

クロスと違い真面目な彼女は意味もなく長い教頭の話熱心に聞いている、彼女はサーリエス教の信者だ、たまにクロスを誘いに来る、そのたびにクロスはその場から逃げる、もし逃げ遅れると1時間ぐらい説教されるので自由大好き人間のクロスにとってはなんとしても避けたい事なのだと考えていると

ドンッ！！

という音とともに大広間のドアが開いた。

エイリツシュ達は大広間の扉を開けた、その後ろにはアルフォリアと茂がいた、

「遅れたのかな？まあいい座りなさい。」

とエルリックは言った。

三人はそれに従い大広間の一番端の席に座った。

教頭の話が退屈なので隣にいた銀髪蒼眼の少女に話しかけた、

「ちよつといいかな？」

少女はこちらを見て、

「別にいいけど、何か？」

と言った

少女が話す気が有りそうなので話し相手が見つかったことを嬉しく思いエイリツシュは

「君の名前は？僕はエイリツシュ、エイリツシュ・フォーリツシュ・デイストレイション、エイリツシュって読んでね」

少女は

「私の名前はイリア、イリア・J・F・クリステル、よろしくエイリツシュ」

「ああよろしく、イリア」

とエイリツシュは握手を求めるため手を差し出した。

イリアもその細い手を差し出した。

こうして握手が交わされた、

そのあと30分（教頭の話が25分）掛けて入学式は終わった。

この後は一日中校内を歩き回れる。そのある意味貴重な時間をクロスはコスタニア学院の中心にある世界樹の下で休みながら潰していた。

この樹は世界樹と呼ばれ高さ1000mをこす、とてつもなく大きな樹である、その大きさはコスタニアナンバーワンだ。

この樹にはいろいろな噂がある。

例えば、

9月の満月の夜に世界樹の下に居ると願いが叶う、とか。

世界樹には妖精が居るとか。

世界樹がコスタニア学院を作ったとか。

世界樹の中には聖サーリエスの遺品があるとか。

眉唾物がほとんどなので生徒の中でこの噂を信じている人はほとんどいない、

クロスも信じていない一人であり、彼がここに居るのはただ世界樹

が日陰を作っているのですその下に居るだけだ。

そんな風に横になっていると、

「ちよつといい？」

と黒髪黒眼の少年が隣にいた、

基本的にこの世界では黒い髪をしている人は少ない、黒い髪の人種は昔戦争に負け滅びたらしい、しかし目の前の男――――茂は黒い髪をしていた、

「座るよ、俺の名前は白河茂、茂でいいよ、君の名前は？」
と

第一部一話（後書き）

説は1万文字いつてから一話進むという感じでいきます
あと初めてです

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9735h/>

魔法と剣と血と

2010年10月10日00時44分発行